

こもだらのとまきちゃん

とまきちゃんこまきちゃん

3年 S・Kさん

「こもだらのとまきちゃん」という題名を見た時、主人公は、きつと、とまきちゃんのことです。自まんしたい友だちなんだと思いました。なぜなら、わたしが友だちのことを書くとしたら、きらいな人は書かないし、「こんな友だちがいるよ」「とまきちゃんかいい人を書いた方がいいです。それで、「とまきちゃん」とはどんな子なのか考えながら読むことにしました。

何事もゆっくりなとまきちゃんは、さつきに色々とお世話されています。わたしから見ると、おせつかいだと思ってしまうこともとまきちゃんはいやがりません。口数も少なく、何を考えているのかわからないので、さつきからは、「へんなことばかり考えている。」「と言われてしまいます。でも、本当にとまきちゃんの考えていることは、「へんなことなのでしょうか。」「わたしは、とまきちゃんのことを少しわかる気がします。時々わたしも、とまきちゃんがじっと考えて何かをしている時のように、つみ木やおはじき、けしゴムやえん筆を使って、自分のそとぞうの世界で遊んでいることがあります。そんな時、お母さんがそとと来て、

「しおちゃん頭のの中に入ってみたいなあ。」

と言います。そう言われると、なんだかうれしくて、お母さんを自分のそとぞうしている世界へつれて行ってあげたくなります。きつと、とまきちゃんの中も「へんなこと」ではなくて、おいしいフルーツがいっぱい入ったゼリーのよう楽しい世界が広がっているのだと思います。

「コスモス畑の場面でも分かるように、さつきは、とまきちゃんといっしょにいると自分の知らない楽しい世界へつれていってもらえることに気がつきます。そして、とまきちゃんの大切さを知ります。

わたしがさいしょに思っていたように、とまきちゃんは、だれかにしようかいしたくなるような、すてきな子でした。わたしもそんな友だちがいたらいいなあと思えました。